

水田たより 3月号

令和7年3月4日

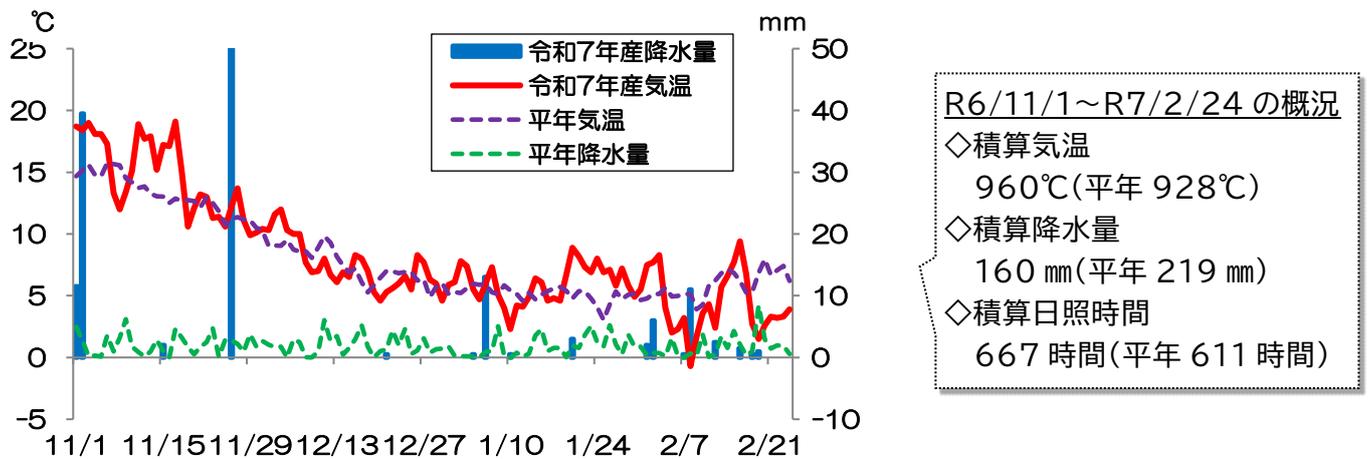
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

麦 気象状況と生育状況

2月は平年より気温が低く推移し麦の生育は低調となりました。特に、11月下旬から12月播種のほ場では生育が遅く茎数が少なくなっています。令和6年産、令和5年産と生育が早い年が続いていたため、令和7年産では生育状況に注意し適期の施肥を行ってください。

<気象状況>



<生育状況>

地域	品種	播種日	過去3か年との比較(2月中旬時点)			
			茎数	草丈	葉齢	葉色
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	11/17	少	小	遅	やや薄い
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/7	少	小	やや遅	同程度
	大麦「ファイバースノウ」	11/5	やや少	やや小	やや早	同程度

麦 適期防除で赤かび病の発生を予防しましょう。

赤かび病に感染しやすい時期は開花期～乳熟期です。特に高温多湿状態で発生が助長されます。令和6年産では開花期前後の降水量が多く、県域で赤かび病の発生が目立ち減収被害が生じました。適期・複数回防除で発生を防ぎましょう！

<薬剤防除のタイミング>

≪1回目≫開花始め～開花盛期

(=出穂期の約7～10日後)

開花前の散布では効果が低くなります。

出穂期を把握し計画的に散布しましょう！

≪2回目≫1回目散布の7～10日後

複数回散布する際は、作用機構の異なる薬剤を選択しましょう！RACコードを確認してください。



出穂期



開花始め～開花盛期

防除計画を立てる

薬剤防除適期

水稻

播種に向けて、休眠に注意

令和6年産に用いられた水稻種子は、令和5年度における夏季の高温による休眠の深さに加え、3月の気温が低かった影響で浸種時の水温が確保できず、発芽不良となったケースが見られました。

令和7年産においても、令和6年度における夏季の高温により休眠が深い可能性があります。浸種時は、水温 10℃以上、積算水温 100℃以上を確保するように注意してください。

先月号（水田たより令和6年2月号）では、休眠打破等について詳しく掲載していますので、ご確認ください。

水稻

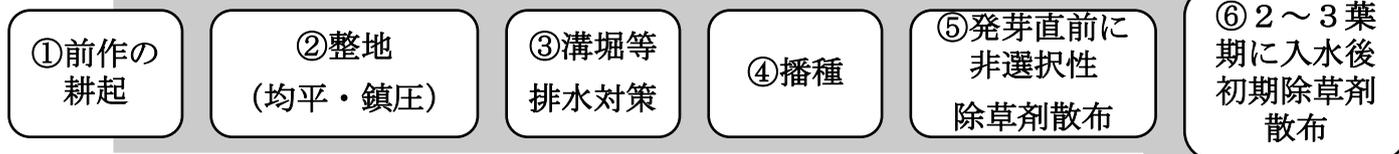
乾田直播栽培技術について

桑名管内では、1経営体あたりの水稻の栽培面積が増加傾向にあります。この現状から適期栽培を行うために、作期分散が求められています。

そこで、今月号では、麦の播種機（グレンドリル）を活用して取り組める、乾田直播栽培技術について紹介します。乾田直播栽培では、種籾を2～3月に播種することで、作期分散できます。

乾田直播栽培の主な流れは以下の通りです。しかし、今回紹介する例は一般的な方法であり、すべての圃場に最適というわけではありません。

<各作業のポイント>



① 前作の耕起

収穫残渣が作業の邪魔にならないように耕起を行いましょう。

② 整地（均平・鎮圧）

入水し、代かきを行う又はレーザーレベラー等で圃場の均平をとりましよう。

③ 溝堀等排水対策

ほ場の排水性が悪いと播種後の種籾が湛水し、窒息してしまい苗立ちに影響するため、圃場の排水性を確保しましよう。

④ 播種

播種量 4～8kg/10a、播種深度 2～3cm で播種しましよう。苗立ちを安定させるために、種子消毒も必ず行いましよう。

⑤ 非選択性除草剤散布

水稻種子が発芽までに発生する雑草対策として、非選択性除草剤を散布します。水稻の幼芽に薬剤がかかると、葉害がでる可能性があるため、必ず、出芽前に非選択性除草剤の散布を行いましよう。播種後の有効積算気温（日平均気温 11.5℃との差）が合計 50℃を超えると発芽するため、天気予報を確認し、除草剤散布を行いましよう。例年、4月上中旬頃が発芽の目安です。

⑥ 2～3葉期に入水、初期除草剤散布

入水の水位は必ず稲の葉がでる高さに調節しましよう。初期除草剤は、散布後1週間程度落水しないようにしましよう。

⑦ ⑥以降は、一般的な移植栽培と同様に管理します。

桑名管内において、種籾を圃場へ2～3月に播種した場合、品種間差はあるものの、収穫時期は4月下旬から5月上旬に移植した水稻と同程度の収穫期となります。現在、取り組みを検討している方がいましたら、お気軽に桑名地域農業改良普及センターまでお問い合わせください。

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索